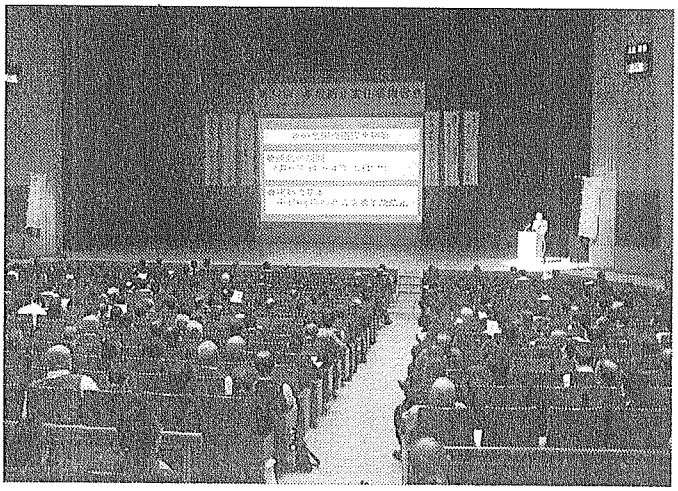
東　京　交　通　新　聞

（5）　2014年（平成26年）4月7日（月曜日）

春の交通安全運動特集



最近の事故事例を示して対策を講じるよう求めた

健康管理で安全対策

東京ハイタク交通共済協　事故防止責任者講習

春の交通安全運動に先駆けて東タク協と東京ハイ・タク交通共済協組の共催で3月31日、東京都港区のメルパルクホールで事故防止責任者講習会を開催、安全対策の重要性を再確認した。

講習では警視庁交通部の廿楽省吾管理官と東京運輸支局整備部門の野﨑雄太陸運技術専門官らが最近のタク事故例を示して対策を講じるよう求めた。

検査と治療を

ヘルスケアネットワークの作本貞子副理事長が講演し、SAS（睡眠時無呼吸症候群）や持病による事故が多いため、日頃の検査と治療の重要だと説いた。

「タクシー乗務員は健康診断をみんな受けるが、要治療となっても無視して治療しない人がとても多い」とし、「まずは治療し、持病とうまく付き合うことが大事だ」と対策を話した。

車内事故増える

野﨑雄太陸運技術専門官は昨年のタクシーによる事故例や傾向を話した。

最近増えている例として急ブレーキによる車内事故、ナビや会話に集中し前方不注意になる例を挙げた。

ドア開閉時に乗客を挟む例が昨年もあり、野﨑専門官は「ドア事故はなかなかゼロにならない」とし、「事故を起こさないことも大事だが、事故を起こした後の対応も必要だ」と強調。「車内に事故後の対応マニュアルなどを設置し、日頃から乗務員への事故後対応の周知もお願いしたい」と訴えた。